

綾瀬市立北の台中学校

研究主題『主体的・創造的に生きる生徒の育成』

副題『知的好奇心を育む協働学習を通して、学ぶ楽しさ・面白さを実感できる授業づくり』

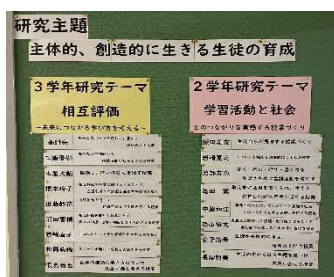
1 実践の目的

学習指導要領に明記された「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、生徒が協働的に学ぶ体験を通して「学ぶことは面白い・楽しい」と実感できる授業を展開していくことが大切である。主体的に学ぶ姿勢を育むことが、生涯学び続けていくためには最も重要であり、そこで立ちはだかる様々な問題を解決するための方法を創造する力こそが、これからの未来を生きる子どもに求められている資質・能力だと考え、研究主題を『主体的・創造的に生きる生徒の育成』とし、副題を『知的好奇心を育む協働学習を通して、学ぶ楽しさ・面白さを実感できる授業づくり』と設定した。

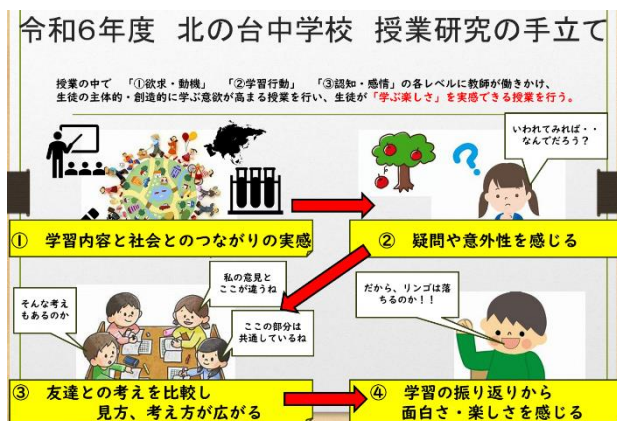
2 実践の内容

(1) 校内研究の体制

各学年がチームとなって学年ごとに副題にそったテーマを設定し、個人目標を立て、校長室前の掲示板に掲示した。全職員の目標を生徒、保護者に発信し、全職員が公開授業を行い、参観し合った。また、公開授業の後には授業参観者全員でワールドカフェ形式で協議を行い、穏やかな雰囲気の中で授業について語り合う時間を設けている。



(2) 研究の手立て



本校が昨年度まで取り組んできた「学び合い」をより生徒が主体的に取り組めるように今年度は4つの視点で授業改善を行った。

①学習した内容が社会でどのように生かされているかを意識させ、②単元の導入や毎時間の授業で生徒が疑問を持て、自分事として考えることができる問いを投げかけられるように授業を工夫した。③授業では生徒たちが協働的に学べるような探究活動を設定し、④授業の最後、単元の最後には個人で学習内容を振り返り、納得解を導き出す中で学ぶことに楽しさ・面白さを実感できる授業になるように授業研究を行った。

(3) 授業スタイルの共通化(～振り返りを通して～)

綾瀬市型小中一貫教育推進事業の中で、授業の最初にめあてを提示し、学習者に授業の見通しを持たせ、授業の最後にめあてに沿った振り返りを行わせている。本校でも学習を振り返る活動を大切にしている。

(4) 単元を意識した授業づくり

本校では公開授業を行う際に「単元計画」を作成し、単元を通して身に付けさせたい力を明記し、単元を通して指導する視点を大切にしている。

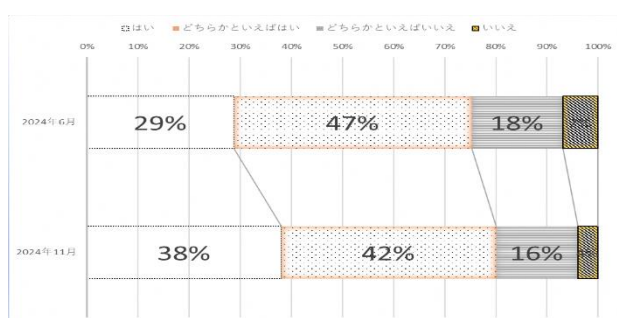
(5) 生徒アンケートの実施

筑波大学教授、桜井茂男先生の『学習意欲』が育つプロセスモデルの考え方を基に、生徒アンケートを毎年2回、実施してきた。毎年同じアンケートを実施することで、年度内の変容や中学1年生から3年間の変容を見取るとを行っている。

3 実践の成果と課題

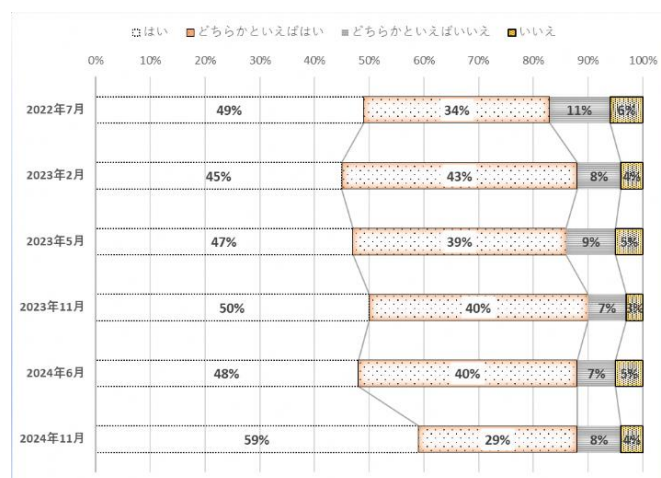
(5)について、アンケートの回答には四件法(①はい②どちらかといえばはい③どちらかといえはいえ④いいえ)を用いた。アンケートの回答率は各回 85%程度の生徒が回答しており、長期欠席の生徒を除けば、学校全体の様子を読み取るためには十分な数の回答数があったと思われる。アンケート結果の考察とまとめは次のとおりである。

(1) いろいろなことを学ぶことは楽しい。



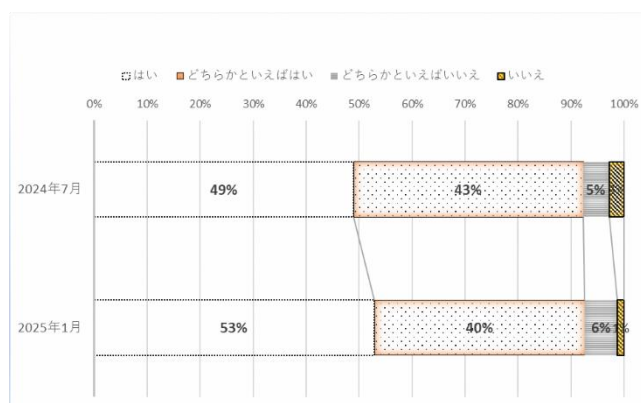
この質問では肯定的に回答する生徒が増え、「はい」と答える生徒が増加した。今年度は協働学習を通して学ぶ楽しさ・面白さを実感できる授業づくりを目指して研究を行ったが、年度内での変化として肯定的に回答できた生徒が増えた。

(2) 授業では友達に教えたり、教わったりすることも多い。



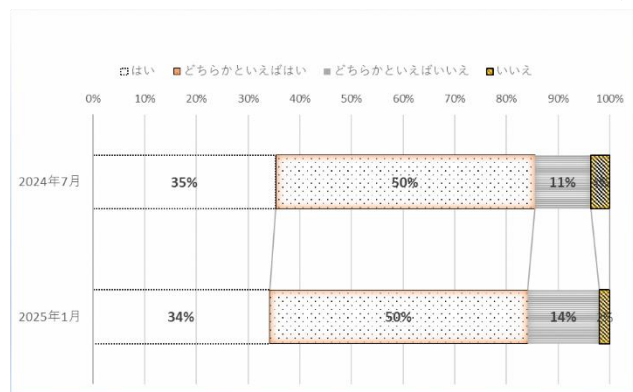
この質問に対する回答は毎年 90%程度の生徒が肯定的に回答している。今年度は1回目と2回目で「はい」と答える生徒が11%増え、協働学習によって学び合いが深まっていると考える。

(3) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



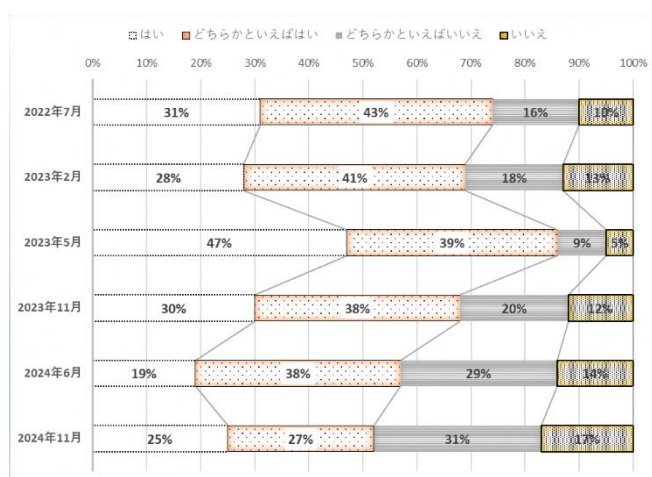
この質問には 90%以上の生徒が肯定的に回答している。生徒の実情を考え、教員たちがチームになって授業研究を行った結果、教員と生徒が良好な関係を築けていると考えられる。

(4) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。



この質問には約 85%の生徒が肯定的に回答している。多くの生徒が主体的に学習に取り組んでいる様子が観察できたがアンケート結果からも同様の結果を得た。しかし、年度内での大きな変容は見られなかった。1回目のアンケート時期よりも学習内容が難しくなり、2回目のアンケート実施時期には学習に対して躓きを感じている生徒も増えていると考える。これからも主体的に学習に取り組めるような授業改善が必要である。

(5) 間違えたり、失敗したりしても、学ぶことは面白い。



「(1) いろいろなことを学ぶことは楽しい」という質問に肯定的に回答した生徒は2回目のアンケートで増えているが、この質問に肯定的に回答している生徒の割合は

減少傾向にある。特に授業で間違えることや失敗をすること避け、人前で自分の意見を発表することを苦手と感じている生徒が多いように感じている。これからも生徒が有能感や自信を持つことができるように授業での声掛けや学習活動の工夫を行う必要がある。

4 今後の展開

授業の中で既習事項を活用し、実際の社会と結びついていると感じられる問いを工夫することで協働学習に主体的に取り組める生徒が増えると思われる。これからも学習の積み重ねを実感できる授業を行い、得た知識を基に考え議論できる授業研究を行う必要がある。

学習に主体的に取り組んでいる生徒が多いが、間違いや失敗することに不安を感じ自分の意見や考えに自信を持てていない生徒が多い。そのようなときに、褒められると社会的自尊感情は高まるが、基本的自尊感情は育まれない。あるがままの自分を受け入れ、自分をかけがえのない存在として認める感情を学校生活での共有体験を通して育てていきたい。